

資料番号		44-01-001-05	44-01-001-08	44-01-001-09	44-01-004-07
調査年月日		2005/9/27	2016/11/29	2016/12/6	2016/12/6
調査者		生谷 吉男	佐藤 忠孝	佐藤 忠孝	佐藤 忠孝
名称		仏国捺染模様綿布襯衣専用地	仏国捺染模様綿布襯衣専用地	仏国捺染模様綿布襯衣専用地	仏国捺染模様綿布襯衣専用地
糸	素材	木綿 未シル	綿	綿	綿
	タテ	木綿	82	94	94
	ヌキ	木綿	70	94	82
色	地色	白地捺染ブルー1色	2色(紺、青)		
	染料・顔料				
	タテ				
	ヌキ				
加工技法	織技法	平織	平織	平織	平織
	染技法	ローラー捺染で幾何模様以外のストライプ模様部分は点の集合で線表現している。	ローラー捺染、直接捺染	ローラー捺染、直接捺染	ローラー捺染、直接捺染
	その他				
文様		幾何模様、ストライプ柄	虫喰状細線の縞柄	砂目状縞柄	格子柄
形状		裂地	裂地	裂地	裂地
用途		柄から見て シャツ地 44編は肌着、下着となっている。	服地	服地	服地
特記事項					
調査所見		44編は線の集合を表現した図柄ばかりである。他は全部同じ蛍光のもの	ピッチ1.5mm程度の細縞を虫喰状に表現し、更に白場に砂目状の小点を印捺することにより、幾何学模様とは異なったランダムで軟らかいタッチを表現している。ミル彫刻と思われるが、高難度な彫刻技法である。	ピッチ0.7mm程度の細縞をランダムに分割し、砂目状の縞柄を表現している。不規則な表現に生じやすい模様のレピート部分の「継ぎ目斑」もなく、すぐれたミル彫刻によるものと思われる。	ピッチ0.7mm程度の全面小格子柄を25mm位の粗い格子枠で区切ったもの。モチーフの小格子はかすれ気味に捺染されていて、糸目表現を狙ったものと思われる。必要深度よりも浅く彫刻することにより、目的は達成できるが、捺染始動から終了まで安定した「カスレ表現」の持続は難しく、どのように克服されたのか、興味を覚える。
製作地					
製作年					
織名称					
法量	縦	76	110	110	70
	横	112	70	70	110
	織耳				
備考		44編は線の集合を表現した図柄ばかりである。他は全部同じ傾向のもの			